

- 問1 13世紀初めに建国され、中央アジアまでを征服して大帝国を築いた人物は誰？
- 問2 日蓮が人々の救いとなるとして唱えることを推奨した「南無妙法蓮華経」という言葉を何という？
- 問3 鎌倉幕府を倒し、1334年から天皇中心の政治を復活させようとした天皇は誰？
- 問4 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
- 問5 北条泰時が制定した、日本最初の武家法の別名を何という？
- 問6 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？
- 問7 鎌倉時代に書かれた文学作品『方丈記』の著者は誰？
- 問8 平氏の栄枯盛衰を描き、琵琶法師によって語り継がれた軍記物語を何という？
- 問9 鎌倉時代後半、分割相続によって領地が細分化し、経済的に苦しくなった状態を何という？
- 問10 鎌倉時代にモンゴル帝国を築き、日本への侵攻を命じたとされる君主は誰？
- 問11 鎌倉時代、領地の細分化により生活が困窮した武士のことを何という？
- 問12 鎌倉時代に東大寺南大門を再建し、大仏様の建築様式を取り入れた僧侶は誰？
- 問13 鎌倉時代に日蓮が唱えた「題目を唱えるだけで救われる」という教えにより、支持を集めた対象となった人々を何という？
- 問14 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？
- 問15 鎌倉幕府が、朝廷の動きを監視するために京都に設置した機関を何という？
- 問16 元寇に備えて博多湾岸に築かれた、石造りの防壁を別名で何という？
- 問17 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？
- 問18 一遍が踊り念仏を通して信仰を広めた、浄土信仰の中心となる仏を何という？
- 問19 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問20 鎌倉幕府において、将軍が御家人に領地などを与えることを何という？
- 問21 武士が主従関係において、自分の仕える相手のことを何という？
- 問22 承久の乱の後、反乱側の貴族や武士の領地に任命された幕府の役職を何という？
- 問23 武士の気風を反映し、写実的で力強い特徴を持つ、鎌倉時代に栄えた文化を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	答え チンギス・ハン	1206年にモンゴルの首長たちによってハン（指導者）に選ばれたチンギス・ハンは、騎馬軍団を率いて中央アジアへ進出しました。高度な戦術と迅速な移動力を駆使して広大な領土を征服し、モンゴル帝国の礎を築きました。
問2	答え 題目	日蓮は『法華経』の功德を信じ、その題目である「南無妙法蓮華経」と唱えることこそが、最も確実な救済の手段であると説きました。これを「唱題（しょうだい）」と呼びます。
問3	答え 後醍醐天皇	後醍醐天皇は足利尊氏や新田義貞ら有力武士の協力を得て鎌倉幕府を滅ぼしました。その後、1334年に天皇による直接統治を目指す「建武の新政」を開始しました。
問4	答え 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。
問5	答え 貞永式目	この時に制定された法律は「御成敗式目」として知られていますが、制定された年号をとって「貞永式目」とも呼ばれます。貴族の慣習ではなく、武士たちの間に蓄積されてきた慣習を尊重したのが特徴で、武士だけでなく、当時領地を管理する上で法的保護を必要としていた人々にとっても重要な指針となりました。
問6	答え 元軍	元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。
問7	答え 鴨長明	鴨長明は、貴族社会から離れて隠遁生活を送った人物です。京都郊外の日野山に小さな草庵を結び、そこで体験した世の中の厳しい出来事や仏教的な無常観を書き残しました。これが文学作品として高い評価を受けている『方丈記』です。
問8	答え 平家物語	『平家物語』は、平氏一族の栄華から壇ノ浦での滅亡までを描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な書き出しで始まり、無常観あふれる物語として広く親しまれました。盲目の琵琶法師が琵琶を奏でながら語り伝える形式で広まったため、多くの人々に愛唱されました。
問9	答え 困窮	限られた土地からの収穫だけでは、幕府への奉公や軍役の準備、生活費を賄うことが困難になり、多くの御家人が借金をして苦しい生活を送るようになりました。
問10	答え フビライ・ハン	第5代皇帝フビライ・ハンは、領土拡大の一環として日本へ朝貢を求めました。しかし、鎌倉幕府がこれを拒否したため、二度にわたる遠征軍（元寇）を派遣しました。また、マルコ・ポーロの『東方見聞録』を通じて、日本を黄金の国ジパングとして世界に紹介したことで知られています。
問11	答え 御家人	御家人は、将軍から先祖伝来の領地を安堵（保証）され、新しい土地を与えられる「御恩」を受ける代わりに、将軍のために戦う「軍役」や、京や鎌倉を警備する「番役」などの「奉公」を義務付けられていました。しかし、分割相続による領地の細分化や、元寇後の論功行賞の不足により経済的に苦しくなりました。
問12	答え 重源	重源は朝廷や幕府の協力を得て、東大寺の再建という大事業を主導しました。その際、中国（宋）の新しい技術である「大仏様（天竺様）」を導入し、太い木材を組み合わせて強度を高める力強い建築を行いました。この様式は、当時の武士の気風や鎌倉時代のたくましい文化を象徴するものとなりました。
問13	答え 民衆	日蓮の教えは、難しい書物を読まなくても「南無妙法蓮華経」と唱えるだけで良いというものでした。この分かりやすさと、社会の悪を鋭く批判する日蓮の態度は、日々の生活に苦しむ民衆に強く支持されました。この支持によって、鎌倉新仏教は急速に広まりました。
問14	答え 鎌倉時代	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を滲えた文学が発展しました。鴨長明の『方丈記』のように、世の移り変わりや自然の厳しさを冷静に見つめる作品が数多く書かれました。
問15	答え 六波羅探題	六波羅探題は、京都の六波羅に設置された鎌倉幕府の重要機関です。朝廷の監視だけでなく、京都周辺の治安維持や、西国の御家人の統制、さらには京都で起こった裁判の処理などを幅広く担当しました。北条氏の一門がこの長官に就任することが多く、幕府の西国支配における最前線の拠点としての役割を果たしました。
問16	答え 防塁	防塁（石築地）は、博多湾岸に長さ約20kmにわたって築かれた石の壁です。これにより、元軍の得意とする騎馬戦術や集団行動を封じ込め、日本軍が待ち伏せや遠距離からの弓矢攻撃を行いやすい環境を作りました。鎌倉幕府の組織力と御家人の動員力が発揮された代表的な防衛事業です。
問17	答え 三大随筆	『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（吉田兼好）の3つを総称して「三大随筆」と呼びます。それぞれ平安時代中期、鎌倉時代初期、鎌倉時代末期に執筆されました。
問18	答え 阿弥陀仏	阿弥陀仏は、無限の寿命を持ち、すべての生き物を救う仏と信じられていました。鎌倉時代には、念仏を唱えるだけで救われるという考えが民衆に受け入れられ、一遍のような僧侶たちが熱心に信仰を普及させました。
問19	答え モンゴル帝国	五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活発化させました。また、強大な軍力を持って周囲の国々に服属を要求しました。
問20	答え 御恩	「御恩」とは、幕府が御家人に対して本領安堵（先祖代々の領地の支配を認めること）や、新恩給与（新しく獲得した土地を与えること）を行うことです。御家人はこれに対する見返りとして、戦いの際に軍役を果たしたり、番役を務めたりしました。
問21	答え 主君	主君は、鎌倉幕府においては将軍であり、家臣である御家人に対して領地の保護（御恩）を保証する存在です。御家人は、この主君のために命をかけて戦ったり、警備などの務め（奉公）を果たしました。この強固な関係性が、鎌倉幕府を維持する大きな力となっていました。
問22	答え 新地頭	幕府はこの没収した領地に「新地頭」を配置しました。これにより幕府は、それまで支配が届きにくかった西日本においても、武士を直接的に管理する体制を築きました。
問23	答え 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。